

美術科 学習指導案

日時	平成24年10月10日(水)	4校時
会場	美術室(特別棟2階)	
生徒	3年A組(男10名 女13名 計23名)	
指導者	路奥 千尋	

1 題材名 「15歳の心 ～自画像で自分の思いを表現しよう～」(絵画)

2 題材について

(1) 題材観

- ・毎年、3年生は中学校美術の集大成として自画像を制作している。中学3年生は進路選択もあり、自分を見つめなおす時期である。制作過程で自分について考察する作業は、成長過程においても有効であることから、取り組む価値のある題材といえる。
- ・本題材では、人物表現を身に付けながら美術の基礎的な技能であるスケッチの力を生かして、鉛筆のみで作品を作っていく。鉛筆の特性を生かしてじっくりと描き込み、自分を積み重ねるように作品の重みを出して、モノクロの美しさや成就感を味わわせたい。
- ・ひたすら鉛筆で描くため、制作へのモチベーションが必要である。構想段階での十分な主題設定と制作段階での確認を繰り返すことで、粘り強く制作する姿勢や作品への愛着、思いや想像力を広げてイメージする力が身に付くと考える。
- ・主題に迫る表現を工夫するために、根拠をもった表現の工夫を考え、自己の思いを確認しながら制作を積み重ねることで、自信をもった表現活動につながると考える。

(2) 生徒観

- ・生徒は思いを表現しようと努力し、意欲的に制作に取り組む。また、先輩の作品から自画像制作に対する心構えや意欲もうかがえる。一方、意欲はもちながらも、技能面の自信の無さから安易に妥協して制作する生徒も見られる。
- ・1・2年生でスケッチやデザイン・陶芸など、基礎的な技能と自分の思いを形にする制作に取り組んだ。また、2年生で「マイ資料集(スクラップブック)」を毎週作成し、発想の素づくりを行った。3年では顔や人物表現について、プロポーションや各パーツの形などの基本的な学習をしている。

(3) 指導観

- ・主題設定を深めるために、学習プリントや作文で自己分析を行った。主題を確認しながらアイデアスケッチと写真撮影を行い、作品への明確なイメージを固めた。
- ・スケッチの基本に戻り、描くものの位置や大きさ・形を比較観察し、陰影での立体感作りなどを再確認する。また、先輩や友だちの表現を鑑賞し、よさや特徴・自分らしさや思いを表現するための工夫に気付かせながら制作を深めさせる。
- ・既習事項のスケッチを足がかりとし、十分な主題追求や主題に近づく表現の工夫など、自己との対話を深めながら制作させたい。
- ・自画像の授業を通して、自分の心を表現する楽しさ・友だちのよさを再確認し、互いに認め合う機会にしたい。

(4) 研究とのかかわり

- ・ 本時のゴールを明確にする課題設定〈導入〉
前時学習から、本時の学習の見通しをもたせる。
- ・ 言語活動を充実させた活動による課題解決〈展開〉
グループで視点に沿った意見交流を行い、主題に迫る表現の工夫に気付かせる。
- ・ 集団の学びを個に返すまとめと評価〈展開・終末〉
意見交流によって気付いた表現の工夫を学習シートにまとめさせる。

3 指導と評価の計画

3 年 美術		題材名「15歳の心～自画像で自分の思いを表現しよう～」(絵画)			総時間	13時間扱い
学習指導要領の指導事項				単元目標		
ア 対象を深く見つけ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと		イ 主題などを基に想像力を働かせ、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練ること			自分自身と向き合い、深く自己の内面を見つめながら、構図やポーズ・表情などを工夫して、粘り強く制作に取り組み、表したい主題や自分らしさを自画像で表現することができる。	
美術に関する 関心・意欲・態度		発想や構想の能力		創造的な技能	鑑賞の能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身を見つめて描くことに興味をもち、より深く自己の内面をとらえようとしている。 ・ 他者の作品に関心をもち、作者の心情や意図・創造的表現の工夫などを主体的に感じ取ろうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が伝えたい心情や表情を考え主題を明確にして構想を練り、表現を工夫することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分らしさが表れるよう鉛筆の特性を生かして、描き方を工夫・追求し、表情豊かに描くことができる。 ・ 人体の基本的な形やプロポーションを理解しバランスを考えながら描くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の多様な表現から作者の思いを感じ取り、味わっている。 ・ 作品を鑑賞し、よさや美しさ・表現の工夫と多様性に気付き、感じ取ることができる。 	
時間	主な学習活動 ／評価規準	美術に関する 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力	
1	・ 題材理解 と作品鑑賞	題材の目標を理解し、自画像制作への関心をもっている。 【プリント】			作品の多様な表現から作者の思いを感じ取り、味わっている。 【プリント】	
2 3 4	・ 構想 1 ・ 写真撮影	主体的に主題を生み出し、構想を練ろうとしている。 【プリント】	自己の内面などを表現するために主題を生み出している。 【プリント】			
5	・ 人物表現演習	人物表現の基本的なプロポーション等に関心をもっている。 【プリント・作品】		人物表現について理解しながら描いている。 【プリント】		
6 7 8	・ 制作 1 (形や位置の追求)			自分の特徴を観察し、形やプロポーションを比較しながら描いている。 【作品】		
9	・ 構想 2【本時】	主題やその表現の工夫について主体的に考え、アドバイスをしようとしている。 【観察・プリント】	話し合ったことを基に、主題に迫るための表現の工夫に気付き、それを生かすための構想を練っている。【プリント】			
10 11 12	・ 制作 2 (主題に迫る表現)	理想的形や主題に近づくよう、粘り強く制作に取り組んでいる。 【観察・作品】		主題に迫り内面を表現するために、鉛筆の特性を生かして、陰影や立体感などを工夫して描いている。 【作品】		
13	・ 鑑賞会	自分や友だちの作品のよさや美しさ、心情を感じ取り、学習を振り返っている。 【プリント】			作品を鑑賞し、よさや美しさ・表現の工夫と多様性に気付き、感じ取ることができる。 【プリント】	

4 本時の指導 (9/13)

【既習の学習】				
<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチ基礎（1・2年次）。人物表現の学習。 ・前時の学習…形や位置を確認しながら制作を進めた。主題の確認を行った。 				
時	学習活動	学習内容	指導のための工夫	評価の視点・方法
導入 5分	1 学習課題を把握する。	・前時の学習想起と、本時の学習課題を把握させる。	○前時を振り返り、これからの制作で主題に迫る表現の工夫を考えることを確認させる。	
	学習課題：構想2 主題に迫る表現の工夫を考えよう。			
展開 40分	2 主題の確認 【自力解決】 (3分)	・作品と自分の主題を確認させる。	○作品が主題に近づいているかを確認し、どのように表現したいかを具体的にあげさせる。	4 [観点：観・意・態] 主題やその表現の工夫について、主体的に考え、アドバイスをしようとしている。 [評価方法：観察・プリント] A：主題やその表現の工夫について、互いに話を聞きながら考え、積極的にアドバイスしたり、聞いたことを書き取ったりしている。 5 [観点：発想・構想] 話し合ったことを元に、主題に迫るための表現の工夫に気付き、それを生かすための構想を練っている。 [評価方法：プリント] A：主題の表現の工夫を、立体感や質感、光、など、具体的な用語や技法、言葉でまとめている。
	3 視点の確認 (7分)	・作例から、意見交換や考える視点を確認する。	○主題を表すために有効な表現方法の工夫や、キーワード等を作例で提示する。	
	4 グループの意見交換 【学び合い】 (15分)	・互いの作品について主題を元にした表現の工夫について考えさせる。	○主題と表現方法について一人ずつ発表し、主題に迫る表現の工夫について意見交換しながら考える。 ○現時点の作品の感想にならないように指導する。	
	5 分かった事をまとめる 【個に返す】 (15分)	・意見交換から気付いたことや、主題の表現方法についてまとめさせる。 ・各グループから1名ずつ発表させる。	○主題と表現の工夫に関して、分かったことやこれからの制作について具体的にまとめさせる。 ○今後の制作でどのように描いていかなど分かったことを確認させる。	
終末 5分	6 本時のまとめ	・自己評価 ・次回の予告	○今日の授業の感想をまとめる。	
【次時や別単元での学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・次の学習…必要な技法の復習と今回の学習を基にした制作。 ・家庭学習…毎回、次の授業までに制作を進めておく。 				

公開メモ 美術

- ・完成まで具体的なイメージ（意志・思いに基づく表現）をもって描ききること。
- ・主題に近づくために多少の方向転換や付け加えも有りとする。
- ・モノクロで完成。色は入れない。字は入れない。
- ・コラージュは場合によってはありか。
- ・完成までの数時間の制作を、闇雲に線を塗り重ねるという作業にしないための構想2。
- ・これまでの中間鑑賞会では、お互いの現状を確認するに留まっていた。鑑賞から学んだものを生かすには個人差があり、漠然とした学びになっていた。よって、技能にも差が出てしまっていた。
- ・なんとなく描きこませるのではなく、作者が主題に沿って表現を考え、線を積み重ねるのでは制作の完成度や深まり方が違うと予想される。
- ・技能重視ではなく、主題表現とのバランスの取れた制作を目指す。
- ・技能のみに頼らず、全員が達成感をもてる制作。

●視点

全員Bでクリアするライン…主題に沿って根拠をもちしっかりと描きこむ部分を決めることができる。

ここまで考えたらAとキーワード…強調して描く

写真にはないものを付け加えて描く

心情表現を背景で表す(線やぼかし、黒く塗るなど)

時間や心情を反映した光を意識して陰影を描く

表情を強調する など

- ・押さえること①…技能までは言及しない
 - ②…現状の評価で終わらないこと
 - ③…作例提示でのキーワードと視点を分らせる。
 - ④…考えさせる作例 B→Aへと段階的に。
 - ⑤…比較する作例
 - ⑥…流れを板書する。(キーワードと話し合いの進めかた)
 - ⑦…聞き手・話し手の話し合いの例を実演する。
 - ⑧…作品展示
 - ⑨…話し合いではCの支援を優先。流れがおかしい時は指導。

●完成に関わる描き込みの度合いも提示する

★意見交換の流れ★

全員が「どこを頑張って描くか」は決められるように、
具体的な発言をし、**活発な意見交換**にしよう。

- ① 4人一組の班隊形で順番を決める。
- ② イーゼルに作品を乗せ、プリントから作品の主題と表現したい感じについて発表する。

・表現についての迷いや悩み、表現したい感じについて

「こういう感じを出したいんだけど…どうすればいいと思う？」

- ③ 他のメンバーから質問と意見交換

・黒板の視点を活用。視点以外の表現も積極的に考えよう。

・現時点の評価はしない。

・主題は、どこで表現されているのか考えよう。

・どこを工夫すれば主題に迫れるか考えよう。**具体的に提案しよう！**

「△△を〇〇すればもっと主題に近づくとと思うよ」

- ④ 言われたことを具体的に書く。

意見が言えたか自己評価する。

★全員終わるまで繰り返す

★一人3分程度で話し合い全体は15分間で行う。

3 学年美術 絵画 「15歳の心～自画像で自分の思いを表現しよう～」

3年 組 番 氏名

1 自分の主題を確認しよう。

- 主題：

- 作品の中で表現したいこと：

- 場面や状況、服装や表情と主題のつながりについて

2 グループで意見交換しよう。黒板の視点と流れ、記入例を確認！メモとろう。

全員が「どこを頑張って描くか」は決められるように具体的な発言で活発な意見交換にしよう。

なまえ【 】	なまえ【 】
なまえ【 】	なまえ【 】

3 分かったことやこれからの制作に向けて決めたことをまとめよう。

- これから、「どこをどのように描いていくか」を具体的に書く！箇条書きでもOK。